

令和7年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要

園芸部門

徹底的な省力化と労力分散による大規模果樹経営の実現

○氏名又は名称 有限会社 M. A. C. Orchard (代表 飯野 公一)

○所 在 地 山梨県南アルプス市

○出 品 財 経営 (モモ、ブドウ、カキ)

○受賞理由

・地域の概要

本法人の本拠地が所在する南アルプス市及び韮崎市は、山梨県の西部、赤石山脈の麓に位置し、気候は盆地特有の内陸性気候で、冬は寒さが厳しく、夏は気温が高い。年間を通じ日照時間は長いが降水量が少ないため干ばつ地帯であったが、昭和40年以降に灌漑施設が整備され、モモやブドウなどの落葉果樹の産地となっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

本法人代表の飯野公一氏は、県立農業大学校を卒業後、米国の大学で農業の大規模経営を学び、昭和63年に就農して以降、条件の悪い農地を含め、担い手のいない農地等を積極的に借り受け、責任をもって管理し地域の信頼を獲得することで生産規模の拡大を図ってきた。本法人は、栽培管理を徹底的に省力化するとともに、雇用労力を積極的に活用することで、現在は我が国の果樹生産では類を見ない24haの大規模経営を実現している。

・受賞者の特色

(1) 大規模経営を可能とする栽培管理と販売先の多様化

モモの低樹高仕立てやブドウの省力的な房作りにより栽培管理を徹底的に省力化するとともに、標高差による生育差や早生から晩生までの品種構成などにより労力分散を図っているほか、条件の悪い農地では省力栽培が可能な釀造用ブドウ等を生産することで大規模経営を可能としている。また、本法人では多様な規格の果実が生産されるため、規格に応じた販売先を確保することで収益性を向上させている。

(2) 環境にやさしい農業への取組

「地域環境の保全に努める」ことを経営理念とし、独自の防除暦により農薬散布回数を必要最低限に抑えるとともに、化学肥料由来の窒素成分をゼロとしている。また、「やまなしGAP」の認証を取得し、生産工程管理で遵守すべき事項を従業員全員で共有している。

・普及性と今後の発展方向

本法人が実現している大規模経営は、高齢化により増加が懸念される耕作放棄地の受け皿にもなり得る先進的なモデルであり、全国の果樹産地の維持に大きく貢献することが期待される。今後は、栽培管理の省力化や経営の効率化をさらに進め、引き続き農地を借り受ける一方、新たな大規模経営体を育成し、それらと連携することで法人の経営力を強化し、より広域での事業発展を目指すこととしている。